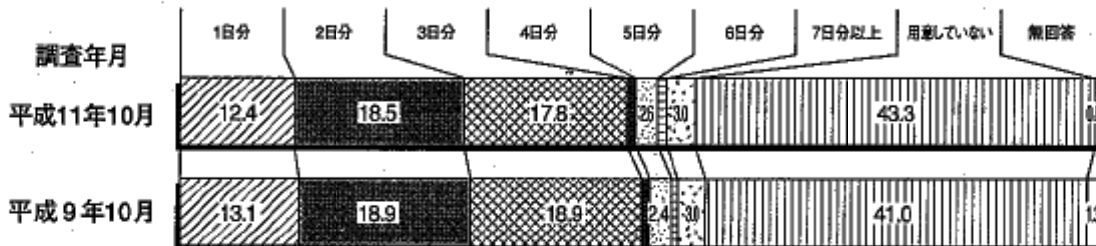
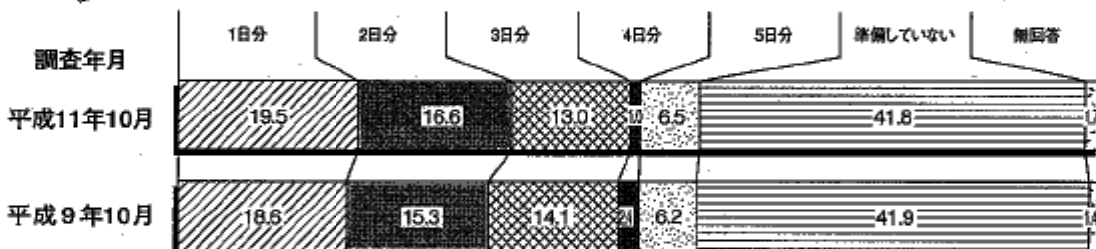


行政も、食料や飲料水をすぐには供給できません。 ある程度は家庭で備えてください。

Q 非常持出用として何日分の食料を備蓄していますか



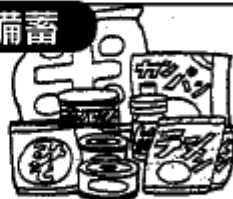
Q 何日分の飲料水を備蓄していますか



非常持出用食料を3日以上備えている家庭は25%、
飲料水を3日以上備えている家庭は、21%でした。
備蓄している家庭は減少しています。3日以上を目安に必ず準備してください。

食糧の備蓄

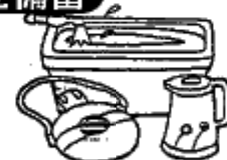
非常食で最低
3日分
備えて
おきたいのは
7日分



- 普段から非常食3日分を含む7日分程度の食料を準備しておく
- 食料の点検、入れ替えを忘れない

飲料水を備蓄

1人1日3ℓで
3日分
9ℓ



- いつも風呂に水をはり、ふたをしておく
- 1人1日3ℓの水を最低3日分用意する

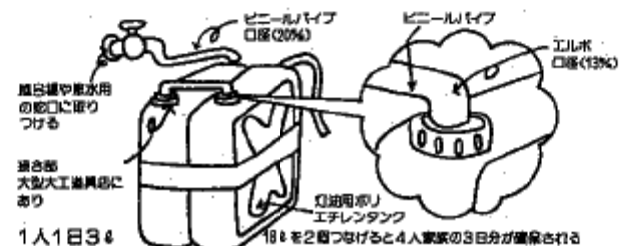
東海地震が発生した場合、食料等の供給活動を開始するまで7日間ほど時間が必要となります。

主食／米、カンパン、インスタント食品など
副食／漬物、梅干し、佃煮、缶詰など
調味料／味噌、しょう油など

日持ちの良い食品を定期的に交換してください。

東海地震が発生した場合、飲料水等の供給活動を開始するまでに、3日間ほど時間が必要となります。

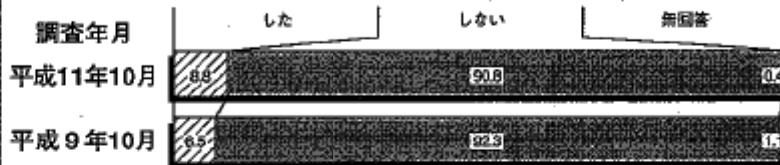
(日曜工作でできる。費用約3,000円)



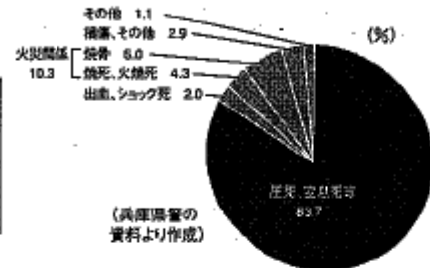
阪神・淡路大震災の死者の約8割は家屋の倒壊による圧死でした。自宅の耐震診断を行い、安全性を確認してください。



木造住宅居住者の耐震診断の実施状況



阪神・淡路大震災の死因別の状況



耐震診断を実施したお宅は全体の9%とわずかでした。阪神・淡路大震災では多くの方が家屋の倒壊で亡くなりました。ぜひ実施してください。

市町村及び県の土木事務所・県建築安全推進室の「建築相談窓口」へ、ぜひお出かけください。

自家耐震診断カルテ 【計算例】

欄	項目	目	評点	解説
a	耐法	基礎	良い 普通 悪い	
		耐力壁式 1.2 1.0 0.9		
b	層数	層数	軽い 重い	重い屋根 瓦葺、カヤ葺等 軽い屋根 鉄板、スレート等
		平 家 1.2 1.0		
c	開口	2 階 壁 0.8 0.7		
		4 隅に壁 1.0		
		1 隅が両方向とも開口 0.9		
e	見かけの壁率	1 階全開口・2階全開口 0.8		
		2 階全面開口 0.7		
		見かけの壁率0.05未満 0.2		
		0.05以上0.15未満 0.4		
		0.15 + 0.25 + 0.7		
		0.25 + 0.35 + 1.0		
		0.35 + 0.45 + 1.3		
0.45 + 0.55 + 1.7				
f	増築せず	0.55 + 0.65 + 2.2		
		0.65以上 3.0		
		増築せず 1.0		
g	腐蝕著しい	1 階のみ増築 0.9		建物全庁から判断し、特に土壌の台所、 風呂場等の土台、柱脚部分も診断する。
		2 階を増築 0.8		
h	腐蝕著しい	老朽化していない 1.0		建物全庁から判断し、特に土壌の台所、 風呂場等の土台、柱脚部分も診断する。
		腐蝕著しい 0.8		
総合評点		E = a × b × c × d × e × f × g		

欄	項目	目	評点	解説
a	耐法	基礎	良い 普通 悪い	
		耐力壁式 1.2 1.0 0.9	0.9	
b	層数	大黒柱式 0.9 0.8 0.8		重い屋根 瓦葺、カヤ葺等 軽い屋根 鉄板、スレート等
		平 家 1.2 1.0	0.8	
c	開口	2 階 壁 0.9 0.7		
		4 隅に壁 1.0		
		1 隅が両方向とも開口 0.9		
e	見かけの壁率	1 階全開口・2階全開口 0.8	1.0	
		2 階全面開口 0.7		
		見かけの壁率0.05未満 0.2		
		0.05以上0.15未満 0.4		
		0.15 + 0.25 + 0.7		
		0.25 + 0.35 + 1.0		
		0.35 + 0.45 + 1.3		
0.45 + 0.55 + 1.7				
f	増築せず	0.55 + 0.65 + 2.2		
		0.65以上 3.0		
		増築せず 1.0		
g	腐蝕著しい	1 階のみ増築 0.9	1.0	建物全庁から判断し、特に土壌の台所、 風呂場等の土台、柱脚部分も診断する。
		2 階を増築 0.8		
h	腐蝕著しい	老朽化していない 1.0		建物全庁から判断し、特に土壌の台所、 風呂場等の土台、柱脚部分も診断する。
		腐蝕著しい 0.8	1.0	
総合評点		E = a × b × c × d × e × f × g		1.936

診断結果の判定

Eの値	判定
1.5 ≤ E	まず倒壊することはない

診断結果
(数値は耐震診断により算出された自宅の評定点です)

総合評価点(E)が高ければ高いほど耐振性が高いわけですが、総合評価点の評価は次のとおりです。

- E ≥ 1.5 まず倒壊しない 警戒宣言時には必ずしも屋外に避難する必要はない。
- 1.5 > E ≥ 0.5 精密診断を要する 専門家(建築士、大工さん等)に現地調査をしてもらい、耐震強度を確認してください。
- E < 0.5 倒壊のおそれが極めて高い 揺動したい、揺動ができない場合は、警戒宣言時には自宅の近、近所の安全な場所に避難してください。

建築面積	(坪)	壁の全長	桁行	(間)	見かけの壁率 壁の全長 建築面積	桁行	(間/坪)	左欄の小さい方の値(間/坪)
			梁間	(間)		梁間	(間/坪)	
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; background-color: #e0e0e0;"> <!-- Grid representation of the empty table --> </div>								

計算例

建築面積	25.0(坪)	壁の全長	桁行 13.5(間)	見かけの壁率 壁の全長 建築面積	桁行 0.54(間/坪)	左欄の小さい方の値(間/坪)
			梁間 (間)		梁間 (間/坪)	
<p>平面図作成表</p> <p>壁の全長計算</p> <p>桁行 --- 1.5 + 0.5 + 0.5 + 1.0 + 0.5 + 1.0 + 0.5 + 1.5 + 1.0 + 0.5 + 1.0 + 0.5 + 0.5 + 0.5 + 1.0 + 1.0 + 0.5 = 13.5 間</p> <p>梁間 --- 2.0 + 1.0 + 1.0 + 0.5 + 0.5 + 0.5 + 1.5 + 0.5 + 0.5 + 0.5 + 1.0 + 0.5 + 0.5 + 1.0 + 0.5 = 12.0 間</p>						
<p style="text-align: center;">6.5 間</p> <p style="text-align: right;">1階平面図</p>						
<p>総合評定の計算</p> $E = a \times b \times c \times d \times e \times f \times g$ $= 0.9 \times 0.8 \times 1.0 \times 1.5 \times 1.7 \times 1.0 \times 1.0 = 1.836$						

診断結果の判定

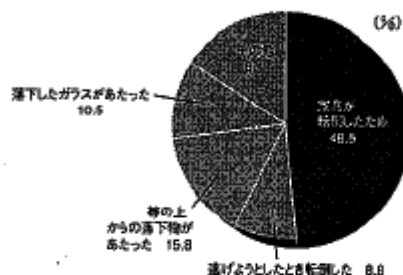
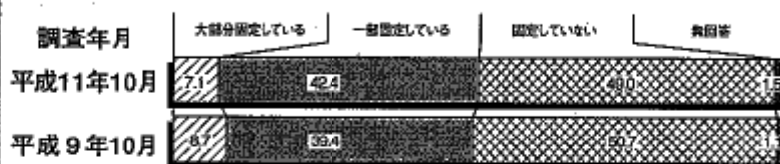
E の 値	判 定
1.5 ≤ E	まず倒壊することはない。

地震発生時に転倒・落下する家具は非常に危険な凶器となります。 自宅の家具類の固定は急務です。



地震に備えて家具類の固定をしていますか

阪神・淡路大震災のケガをした人の原因



家具類の固定を一部でも実施しているお宅は、50%でした。
阪神・淡路大震災でも、家具の転倒によるけがの死亡が報告されています。
就寝中などに地震が発生した場合、家具類が転倒しては逃げるいとまありません。
自宅内の対策で被害を最小限に止めてください。

家具類の固定は、家庭の対策でもっとも基本的なものです。
みなさんのちょっとした工夫や日曜大工でも、十分な安全対策ができます。

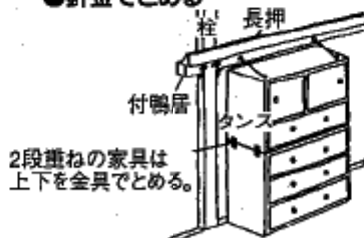
1. 寝室、居間あるいは乳幼児のいるところには、家具は置かない。
2. 家具は、ガラス窓や障子を背にして置かないで柱や壁を背にして倒れないように柱にとめる。
3. タンスの上には、重いもの、割れやすいものは置かない。
4. 食器棚は、中のものがすべり出さないよう、柔らかい敷物を敷いておく。
5. バルコニーや階段のおどり場の手すりの上には、植木鉢等を置かない。
6. バルコニーに置いた洗濯機等が倒れて窓ガラスが割れるようなことのないよう注意する。

県及び市町村では、パンフレット「家具の地震対策」を用意しています。

例

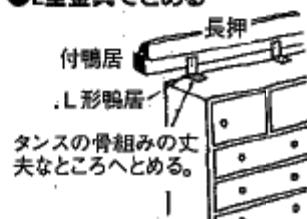
背の高い家具は、鴨居に針金やL型金具でとめる

●針金でとめる



2段重ねの家具は上下を金具でとめる。

●L型金具でとめる

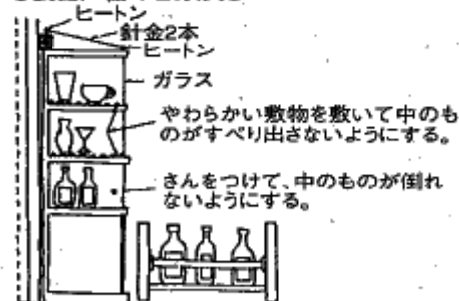


タンスの骨組みの丈夫なところへとめる。

用意するもの



●食器戸棚のとめかた



やわらかい敷物を敷いて中のものがすべり出さないようにする。

さんをつけて、中のものが倒れないようにする。

●つり下げ型照明器具のとめかた

器具の4すみをひもまたはチェーンでとめて器具が天井にふれないようにする。

